

肩関節疾患に対するセラピストの役割



肩の治療ってむずかしい...。
と悩んでいませんか？
今回は医師や理学療法士が本音で語り合える場をご用意いたしました。
ご参加をお待ちしております。

日 時：令和2年4月26日（日曜日） 9時～16時（受付8時30分）

場 所：丸子中央病院 2F リハビリテーション室及び大会議室
（長野県上田市中丸子 1771 番地 1）

内容及び講師：

講義：『肩鏡視下手術の実際』

坂井邦臣先生（くろさわ病院 肩・膝・スポーツ関節鏡センター センター長）

内容：拘縮肩の関節包の状態

反復性脱臼の関節包の状態、Hill Sachs 損傷の程度、

肩峰下インピンジメント症候群のインピンジ所見

腱板断裂の実際の断裂の大きさ・断裂断端の質、修復状況

鏡視下手術ではこれらの状態が詳細に観察出来ます。普段皮膚の上から触っている組織を実際に目にする事で理学療法の進め方、手術適応の考え方がより明確になると思います。

今回の研修では鏡視所見を紹介しつつ、私の考える手術適応をお伝えしたいと思います。

講義：『肩鏡視下手術後症例の治療経験 ～保存治療で出来る事と出来ない事～』

渡邊智恵先生（同センター リハビリテーション統括責任者）

内容：肩鏡視下手術後症例を治療する中で皆様にお伝えできるとし、広範囲断裂や拘縮症例、腱板断裂の手術適応などもふまえ、保存療法のみを行うセラピストの方々にも、お伝えできることを紹介できればと思います。

※4月よりくろさわ病院で新しいセンターをたち上げることになりました。

実技：『肩関節疾患の可動域改善策について ～評価と徒手療法のポイント～』

児玉雄二先生（ATC）

内容： 成長期の肩関節疾患の治療と予防の実践を多数経験してきた過程で、肩関節の可動域を厳密に評価し十分に改善させないと痛みが改善しない事、再発しやすい事、そしてパフォーマンスが上がらない事がわかりました。完全な改善のためには可動域改善は必須の要素だとも経験してきました。心がけてきたのは厳密な評価と可動域改善策としての徒手療法および運動療法の考え方と技術です。これらの経験を年代や保存療法、手術療法を問わず、各種肩関節疾患に当てはめてゆく事と、やはり可動域改善が効率的で効果的な対策になると感じました。肩関節疾患の可動域改善については、セラピストの力量が試される部分でもあります。セラピスト自身がどこまで治せていて、どこからが自然治癒で、なかなか改善しないのはどうしてなのか、という事を振り返られるような時間にしたいと考えております。肩関節に慢性的な障害がある方がご参加して頂ければ嬉しく思います。

時 間： 8時30分受付開始 9時00分～16時00分

9時00分～11時00分：坂井先生、渡邊先生講義

11時00分～11時30分：本音のディスカッション 司会：児玉雄二（ATC）

11時30分～12時30分：昼食

12時30分～15時50分：児玉雄二先生実技

15時50分～16時00分：総括、質疑応答、終了

参加費：8,000円（各種養成校学生は3,000円）

対 象：理学療法士、作業療法士、柔道整復師、健康運動指導士、各種トレーナー、

定 員：30名

持ち物：動きやすい服装、昼食、バスタオルまたはヨガマット

駐車場：病院外来駐車場（建物向かって左側）をご利用ください。

※駐車料金 100円かかりますが、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先：丸子中央病院リハビリテーション科 高橋啓太

e-mail: hp-reha@maruyamakai.or.jp

お問い合わせは原則的にメールのみとさせていただきます。